

受験番号

氏名

「建築意匠・建築史」は問1～問4までの全4問です。試験問題は3ページあります。それぞれの設問の問題文をよく読み、指示に従って解答してください。他の科目と同じ解答用紙には解答しないでください。解答用紙には解答した問番号がわかるように、解答用紙に記入してください。採点時に問番号がわからない解答は0点となります。

問1

下記の文章の①～⑩について、ふさわしい語句を解答用紙に「問1 ①×××、②△△△」のように記入してください。

- ・古代メソポタミアにおける聖塔のことを（ ① ）という。「高い所」という意味であり、基壇状の外観をもつ。ウル第三王朝において建造されたものが比較的保存状態の良い遺跡として有名であり、日乾煉瓦や焼成煉瓦が用いられていたとみられている。
- ・古代ギリシアや古代ローマの建築にみられる、柱をはじめとした部材の比例関係をオーダーという。ギリシア神殿におけるオーダーは3種類にまとめられ、（ ② ）式、（ ③ ）式、コリント式が存在する。古代ローマにおいてはトスカナ式、（ ④ ）式の2つが追加され、後世のルネサンス期に5つの独立したオーダーとして確立される。
- ・ビザンチン建築の主要な特徴の1つとして、正方形の平面にドームをかけるにあたって、正方形の四隅から球面の三角形が立ち上がり、上部に半球状のドームをのせる（ ⑤ ）ドームというドーム形式があげられる。代表例として、ギリシャ十字形の平面に5つのドームをのせたイタリア・ヴェネツィアのサン・マルコなどが挙げられる。
- ・1920年代～1930年代に建てられたアメリカの超高層ビルにしばしば装飾として表れる様式が、（ ⑥ ）と呼ばれる様式である。（ ⑥ ）は1925年の「現代装飾美術・産業美術国際博覧会」における出展品の装飾的特徴にちなんでつけられた様式名である。幾何学的ジグザグ線や、放射線、流線形、鉱物の結晶体のような面の組み合わせといった特徴を持つ。
- ・日本の神社形式として、切妻屋根の妻入りで、入り口側の中央の柱を設けず、中央を入口とした左右対称な立面を持つ形式を「 ⑦ 」造という。「 ⑦ 」大社に代表される形式。シンプルな造りであり、その成立が古代であると従来されてきているが、明確な史料は見つかっていない。
- ・書院造の成立に前後して、邸宅の各部の寸法体系を比例関係から決定する「木割」という技術が成立する。（ ⑧ ）は幕府大棟梁・平内家初代政信が記したとされる秘伝書で、当時の木割が示されている。
- ・日本における近代建築運動に、東京帝国大学卒の6人が結成した（ ⑨ ）がある。日本で初めての近代建築運動とされている。佐野利器による工学的側面の強い建築教育に対して、建築の芸術面を主張した。山田守、石本喜久治らによる運動である。
- ・関東大震災からの復興において、都市の不燃化を目指して（ ⑩ ）による鉄筋コンクリート造のアパートの建設が推進された。（ ⑩ ）青山アパートメントの跡地は、現在は表参道ヒルズとなっているが、1部が復元保存されている。

受験番号

氏名

問2

下記の文章A～Dのうち、内容が正しいものを選択して、「問2 ①A ②A」のように解答用紙に記入してください。

- ①
- A：古代ローマの劇場は、小高い丘の上にある聖域と、丘の下に広がる都市との間に設けられており、丘の傾斜を利用した屋外劇場として作られている。丘に埋め込まれるように作られているため、外観がほとんど存在しない。劇は仮面劇が主体である。
- B：古代ローマの遺構において、約42mの直径の球形がすっぽり入るドームを持つ遺構としてパンテオンがある。ローマの神々を祭る神殿として作られたとみられている。
- C：古代のエーゲ海文明において、見られる王や王妃の部屋のプランとみられる「カタコンベ」は、正面の妻側に入口を設けた主室と袖壁を延ばしその間に2本の円柱を建てた前室からなる。「カタコンベ」のプランは、もっとも素朴なギリシア神殿のプラン形式と同等であり、ギリシア神殿の原型であるとみられている。
- D：11世紀から12世紀に、東フランク王国・西フランク王国を中心に使用された様式がマニエリスムである。マニエリスムの建築の特徴は、石造の厚い壁、半円アーチ、各ベイにかかる交差ヴォールトが代表的であるが、地域間ではさまざまに意匠が異なる。
- ②
- A：西洋における様式建築からの離脱においては、装飾の否定に向かうモダニズムまでの過程で、歴史的な装飾モチーフではなく、植物などをモチーフとした曲線を多用したゼ・セッション建築などが生まれた。この様式の代表的事例としては、タッセル邸などがあげられる。
- B：ルネサンス以降の建築論は、プロポーションのみを扱い、色彩は問題とされなかったが、考古学的な古代調査により遺跡が当初は極彩色に塗られていたことが分かることで、新古典主義とよばれる煉瓦の焼成による色彩の多様性の再評価が行われた。
- C：モダニズム建築の確立においては、ル・コルビュジェが果たした役割は大きい。コルビュジェは、著書を通じた近代建築思想と、それらの思想を取り込んだ実作の両面で近代建築をけん引した。住宅の代表作としては、ロビー邸、カウフマン邸などを手掛けている。
- D：鉄とガラスの工業生産は、19世紀以降の建築の作られ方を大きく変えることとなった。最初期の鉄とガラスの建築としては、リチャード・ターナーによるキューガーデンのパームハウス、ジョゼフ・バックストンによるロンドン万博のクリスタル・パレスなどがあげられる。

受験番号

氏名

- ③
- A：高床建築について、梁間1間型の高床建築は古墳時代前期まで残るが、建築平面の拡大に伴い古墳時代中期以降は総柱型が主流となる。
- B：平城京は、仏教伝来以前に造営された京であり、当初は仏寺が建立されておらず、後年になって飛鳥寺、薬師寺、大官大寺が設置された。
- C：日本最古の現存木造建築群とされている法隆寺の西院伽藍に含まれる塔は、三重塔に各階裳階付きである。上層に移るにつれての大きさの低減が大きく、最上階の1辺の長さは初層の約半分となる。
- D：武野紹鷗は千利休の弟子の1人であり、利休の完成させた草庵風茶室に対して、武家茶人として格式を加えた。代表作に燕庵がある。
- ④
- A：禅宗様は、中世における東大寺大仏殿の再建において、重源が南宋地方の様式をもとに創作した様式。貫の多用、虹梁、丸束、化粧屋根裏などが架構の特徴。貫の使用による軸部の緊結、木鼻、棧唐戸、皿斗などが後世に影響として残る。
- B：日本の建築の近代化においては、初期はお雇い外国人とよばれる外国人技術者が活躍した。泉布観を設計したトーマス・ウォールトス、東京帝室博物館を設計したほか工部大学校において日本人建築家の教育をになったジョサイア・コンドルなどがあげられる。
- C：日本の戦後モダニズムをけん引した前川國男は、東京帝国大学の研究室において多くの建築家を輩出することとなる。代表作には、広島平和会館原爆記念陳列館、香川県庁舎、国立代々木競技場などがあげられる。
- D：パトリック・ゲデス著の「建築家なしの建築」では、世界各地の風土的建築物や集落が取り上げられている。著名な建築家ではなく、様々な無名の職人や工匠たちによって育まれてきたアノニマスな建築の中に近代建築の要素を見出している。

問3

平安時代の日本の寺院建築に関して、野屋根の発生について、野屋根の説明と、その必要性について解答用紙に記入してください。くわえて、平安時代の日本の寺院建築について、代表事例やその特徴について解答用紙に記入してください。解答部分の冒頭には問3と表記すること。

問4

近年、公共建築の建設において、複数のビルディングタイプ・機能を合築する事例が増えている。合築することによる建築設計上のメリットとデメリット、合築されている実例の建築名と合築されている機能のそれぞれについて解答用紙に記入してください。解答部分の冒頭には問4と表記すること。